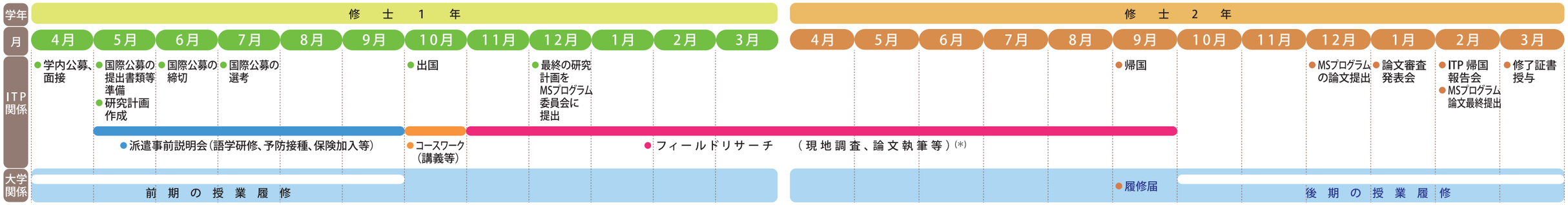
応募～派遣～ITP 修了までのスケジュール



(*) フィールドリサーチの実施期間は、研究計画により個別に異なります。

語　学　研　修

ＩＴＰ参加学生は、最大約１年間海外で生活し、研究を行うため、相応の語学力が必要です。

ＩＴＰでは海外派遣前の２，３ヶ月間に週１～３回の語学研修を実施して語学力の強化を図っています。海外での授業や研究指導、論文作成は全て英語で行われるため、特に英語力を向上させることが主な目的ですが、アラビア語など派遣先の日常語を学ぶ機会も設けています。語学力を含むコミュニケーション能力は、現地指導教員や学生等との意思疎通を容易にし、現地の人々とのふれあいの機会を増やし、時には自分自身の身の安全を確保する手段にもなり得る重要なものです。

語学研修の様子

コースワーク（講義）

海外で約３～４週間、コースワーク（講義）に参加します。

このコースワークにはＭＳプログラムに参加する学生全員が集まります。この間、世界の専門家により、乾燥地に関する講義が全て英語で行われ、広範な知識を身につけるとともに、豊かな国際感覚と語学力を養うことができます。

開催地は毎年変わりますが、これまでチュニジア（IRA）、シリア（ICARDA）、中国（CAREERI）で開催されています。

講義の他、ディスカッションや実習、フィールドビジット（乾燥地の現場訪問）などもある

The Voice 参加学生から

シリアの国際乾燥地農業研究センターで、シリア、チュニジア、パレスチナ等の学生らと共に、干ばつや土地の劣化、砂漠化など、乾燥地が抱える様々な問題について学んだ。授業中、世界の中での日本の立場について考えさせられる場面があった。それは砂漠化の講義の中で、地球温暖化について話し合っていた時だった。学生の一人が、「先進国は多量の二酸化炭素を排出しても何とも思わない。なぜなら先進国には砂漠がなく、砂漠に住む人々の苦しさをわかっていないから。」と言った。私はその言葉を聞いて、先進国であり、多量の二酸化炭素を排出している日本の、世界に対する責任の重さを感じた。

川口（かわぐち） 子葉（しよう）　ＩＴＰ第２期生

フィールドリサーチ（現場研究）

海外パートナー機関で数ヶ月～研究を行います。

申請時に提出する研究計画に基づいて、学生はパートナー機関においてフィールドリサーチを行います。各自の研究内容によって滞在期間は異なりますが、数ヶ月～10ヶ月程度です。

フィールドリサーチの期間中は、鳥取大学の指導教員と、パートナー機関の指導教員とともに、研究計画を遂行し、論文を作成します。

ICARDA（シリア）で研究を行う学生

論文審査発表会（ディフェンス）

学生はフィールドリサーチ中に行った研究を取りまとめ、ＭＳプログラム委員会に論文を提出しますが、その前に論文審査発表会で研究発表を行います。発表・質疑応答は全て英語で行われます。ＭＳプログラムに参加する他国の学生も参加・発表します。この発表会では専門家らによるアドバイスを受けることができます。また審査の結果合格と認められると、ＭＳプログラム委員会から修了証書を授与されます。

2010 年 1 月蘭州（中国）で行われた論文審査発表会で約1年に及ぶ海外での研究結果を発表した日本人、中国人の学生たち。

The Voice 指導教員から

フィールドリサーチ期間、私は派遣学生の指導教員として、メール等でアドバイスを行ったり、現地の指導教員と打ち合わせを行ったり、時には実際に派遣地（シリア）へ赴いて指導を行った。ちなみに、彼女の現地での指導教員は、イラン人とエチオピア人の研究者である。本当に国際的な環境である。

ICARDA の大きな圃場で、彼女は病害虫、とくに収量に大きな打撃を与える寄生センチュウ類に関する研究を行った。研究センターでは日本語を話す機会など全くない。研究者とは常に英語で話す。英語の通じない現地の人々とは、電子辞書を片手にアラビア語といった感じ。どんな状況にも適応できる力を、自分の経験から身に付け、一歩一歩国際的感覚を養っている。

西原（にしはら） 英治（えいじ）　農学部・准教授